

(第3種郵便物認可)



# 平和を守る決意 広島で新た

## 松本地方 4市町の中学生が訪問

広島の「原爆の日」の6日に行われる広島平和記念式典に参列する松本地方の中学生80人が、5日に続々と広島市に入った。松本、塩尻、安曇野の3市に加え、池田町も初めて中学生を派遣した。原爆が投下されてから70年がたち、被爆者の高齢化や被爆体験の風化が叫ばれる今、生徒たちは被爆者の生の声を聞いたり広島平和記念資料館を見学したりして、被害の実態や平和を願う心に理解を深めた。(荘 隆子)

松本市の23校の44人 白石多美子さん(76)は6歳の時に被爆した。広島市南区の話を耳を傾けた。白石さんは結婚や子育てで抱え続けてきた被爆者故の不安を語り、安曇中2

平和記念公園内の「原爆の子の像」に折り鶴を供える松本市の中学生たち

年の大野翔太君(13)は「原爆の被害は将来にわたる残酷な被害だったと実感した。平和な社会のために僕たちができることを考えた」と話した。爆心地近くの原爆ドームも訪ね、被爆直後の町の様子に思いをはせた。塩尻市の12人は、市民らから寄せられた折り鶴約2万5000羽を、被爆から10年後に白血病で亡くなった佐々木禎子さんを偲んで建立された「原爆の子の像」へ供えた。「ヒロシマ青少年平和の集い」にも参加し、全国の中学生らと平和について意見を交わした。安曇野市の生徒21人は、被爆体験者が残した手記や詩の朗読会に

参加した。堀金中3年の杉本光君(14)は女兒が爆心地近くで見た惨状を書いた詩を、一言一言をかみしめるように朗読し「二度と戦争をしてはいけないと強く思った。原爆や戦争で身近な人を亡くした人の思いを家族や友達にも伝えたい」と話した。池田町からは3人が訪れ、平和記念資料館などを見学した。